

# 経営の多角化で基盤強化に

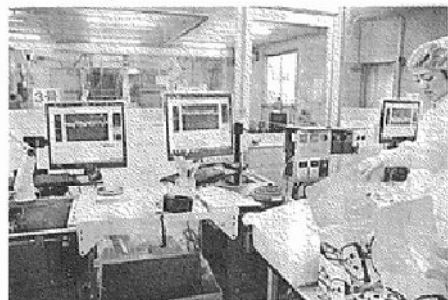
## シバセ工業 ストローク製造でも装置を導入

### 自動検査装置の販売を促進

シバセ工業(株) (浅口市鴨方町六条院中3037、磯田拓也社長、電0865・44・2215) は経営の多角化のため、モーター用の自動電気検査装置の販売を進める。同社は飲料用ストロークのほか、近年は医療用などにストローク需要を開拓し、08年に開設した電子事業部はモーターの検査装置を扱い、今後、この分野の需要が見込めると判断し、同事業部の営業を強化して経営基盤を固める考えだ。



同社製造のスト



ストローク製造で取り入れた同社開発の検査装置。円内は磯田社長の

ローは長年、大手飲料メーカーからの受注が大部分を占めていたが、大手取引先からの受注が大幅に減少。小ロット多品種生産を売りに、昨年は東日本エリアの販路拡大のため、さいたま市に関東営業所を開設した。一方、電子事業部では、販売に注力している自動電気検査装置を、磯田社長が以前勤務していた日本電産(株) (京都市南区、永守重信社長、資本金665億5122万790円)などに計400台以上を納品した。同社では今後、モーターの需要は拡大すると試算、業績好調な日本電産を主要取引先に、人材獲得にも注力するなど、ソフト面も強化する。同社製造の装置は、モーターを稼働させ、回転数や振動の強弱、回転方法などを計測し、パソコンにデータとして記録も出来る。製造・開発は本社で担う。

磯田社長は「ストロークの製造過程でストロークの直径を計測する技術をモーターやパイプの検査などに応用して需要に対応している。モーター生産は海外に移行する傾向にあるが、海外での業務の効率化にも弊社の装置は利点がある。今後、電子事業部門での売り上げを伸ばしたい」と話している。

### 3/22、23日に蔵を開放 「100周年の集大成に」

嘉美心酒造

シャトルバスも運行

酒造メーカーの嘉美心酒造(株) (浅口市寄島町7500-2、藤井進彦社長、電0865・54・3101) は創業100周年を記念し、イベント開催を積極化している。昨年10月から新商品発表を兼ねた蔵開放を開催しており、3月22(土)・23(日)の両日、同社で大規模な蔵開放を開催する。

新米が収穫され、昨秋から100回目の酒造りを開始し、100周年記念酒「長久正宗」の新素材を発表したほか、2月には酒仕込み体験会を開催した。